

たまねぎレポート【349号】



平成28年11月26日

阪南青果株式会社

社内報

10月の天気は、全国的に数日の周期で変化した。東・西日本、沖縄・奄美では気温はかなり高かった。北日本では、上旬は高かったが、下旬は記録的な低温となった。降水量は西日本では多く、日照時間はかなり少なかった。11月の気温は北日本で平年より低い日が多く、西日本では高い日が続いた。北日本の積雪は例年より早く、24日には北・東日本で平年より早い積雪となり、首都圏では11月の積雪は54年振りとなった。

気象庁が発表した12月から2月の3か月予報では、この期間の平均気温は北日本で平年並み亦は高い。降水量は北日本と西日本の日本海側で平年並み亦は多い。月別予報は次の通り。

12月、北日本の日本海側では、平年同様に曇りや雪亦は雨の日が多く、太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の日本海側

では、平年同様に曇りや雨亦は雪の日が多い。東・西日本の太平洋側では平年同様晴れの日が多い。沖縄・奄美では曇りや雨の日が多い。降水量は、北・西日本の太平洋側で平年並み亦は多い。

1月、北日本の日本海側では、平年同様曇りや雪の日が多く、太平洋側では晴れの日が少ない。東・西日本の日本海側では、曇りや雪亦は雨の日が多い。西日本の太平洋側では平年に比べ晴れの日が多く、沖縄・奄美では曇りの日が多い。気温は、西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は低い。降水量は、北・西日本の日本海側で平年並み亦は多い。沖縄・奄美で平年並み亦は少ない。

2月、北日本の日本海側では、平年同様曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、曇りや雪亦は雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年同様晴れの日が多い。沖縄・奄美では平年同様曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

10月の主要市場の野菜の入荷は、9月の天候不順で生育不良の品目が多く、総ての市場で前年比減となった。入荷減を反映して平均価格は前年比3割高となり、野菜の高値が家庭の食生活に影響した。市場別に入荷と価格は、札幌市場の入荷は前年比84%、平均価格はkg ¥194前年比133%。東京市場は前年比91%の入荷で、平均価格はkg ¥316前年比133%。名古屋市場は前年比87%の入荷で、平均単価はkg ¥284前年比131%。大阪本場の入荷は前年比95%で、平均単価はkg ¥296前年比126%。福岡市場の入荷は前年比95%で、平均単価はkg ¥236前年比134%となっている。

10月の主要市場の玉葱の入荷はまちまちで、北海道産地から遠隔地の

福岡市場は大幅増となり、近隣の札幌市場は大幅減であった。市場別では、札幌市場の入荷は5,170トン前年比85%、平均単価はkg¥73前年比106%。東京市場は10,726トンの入荷で前年比98%、平均単価はkg¥85前年比109%。名古屋市場の入荷は6,440トン前年比99%、平均単価はkg¥75前年比104%。大阪本場の入荷は4,603トン前年比126%、平均単価はkg¥86前年比99%。福岡市場の入荷は4,147トン前年比137%、平均単価はkg¥112前年比119%となっている。他野菜の高値で、一部に代替え需要が見受けられたものの、量販店の特売が少なく需要は伸び悩んだ。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の10月の販売量は、98,654トン前年比94%(前月比97%)。平均単価はkg¥196前年比138%(前月比117%)の高値で2か月連続の前年前月比2桁高となっている。10月の野菜は、入荷減の市況高となったことを受けて、小売値が高騰し家庭の食生活に大きな影響を与えた。市場販売量が前年比増となった品目はタマネギ・ジャガイモ(前年比115%)の2品目だけであった。前年比減はハウレンソウ(前年比61%)を始め、ニンジン(前年比72%)、レタス(前年比75%)など12品目。価格は14品目総てが前年比高となっており、ニンジンがkg¥233で前年比2.3倍になったのを始め、キュウリがkg¥460で前年比187%、ピーマンがkg¥495で前年比168%、ハクサイがkg¥127で前年比163%、タマネギはkg¥81で前年比109%となっている。

東京都中央卸売市場の10月の野菜の入荷は、129,927トン前年比91%(前月比99%)であった。主要品目で前年比増となった品目は、サトイモが前年比107%であったのを始め、ナスが105%、ハクサイ101%など4品目(前月は6品目)。前年比減の品目は、ハウレンソウの前年比59%を始め、キュウリが前年比81%、ニンジンが前年比86%など11品目(前月は9品目)。平均単価はkg¥316前年比133%(前月比117%)で、主要14品目総てが前年比

高で、近年にない高値水準となり、家庭の台所を直撃した。旬別では、上旬 ¥309(前年比120%)、中旬 ¥321(同133%)、下旬 ¥315(同147%)となっている。

玉葱については、上旬 ¥92(前年比115%)、中旬 ¥85(同110%)、下旬 ¥80(同106%)で平年並みの水準であった。北海物の潤沢な入荷で日々軟調な市況が続き、月平均値の ¥85は主要品目の中では、唯一2桁台で野菜の中では割安であった。府県産が病害による不作で異常な夏高相場の後遺症で、値頃な価格水準になったものの、需要は伸びなかった。

東京都中央卸売市場の10月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	129,927	91.4	98.7	316	133.0	117.0
た ま ね ぎ	10,726	98.3	96.3	85	109.4	67.5
キ ャ ベ ツ	16,686	99.3	98.6	166	121.2	172.9
は く さ い	14,716	101.2	140.3	143	166.7	157.1
だ い こ ん	12,467	87.5	111.1	149	171.9	111.2
ば れ い し ょ	7,584	100.3	102.4	155	142.3	90.6
に ん じ ん	7,838	85.9	123.3	261	225.0	96.3
レ タ ス	6,556	83.8	67.8	398	155.0	173.8
ト マ ト	5,771	92.5	67.5	545	120.6	167.2
き ゆ う り	5,312	80.5	69.7	497	187.8	158.3
か ぼ ち ゃ	3,537	89.8	109.3	194	136.6	98.0
な が い も	840	97.6	89.7	443	113.3	100.5
れ ん こ ん	884	83.2	105.5	554	132.5	103.8
に ん に く	245	84.4	96.8	1,227	126.7	112.2

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の10月の玉葱の入荷は、10,726トン前年比98%（前月比96%）で需給は緩和し荷凭れ傾向となり、相場は日毎に軟化した。前月に続き北海物主導の販売で、北海物の入荷は10,176トン前年比96%前年比96%、占有率は95%で前年比2ポイントダウン。中国物の入荷は502トン前年比174%、占有率は5%で前年比2ポイントアップ。兵庫物の入荷は34トン前年比50%、占有率は0%で前年比1ポイントダウン。平均単価はkg ¥85前年比109%（前月比67%）。産地別の月平均価格は北海物がkg ¥85前年比112%、兵庫物はkg ¥288前年比123%、中国物はkg ¥67前年比74%であった。

11月に入り、北海物の入荷は潤沢で、需給バランスは崩れ、荷動き鈍化で荷凭れ状態が続いた。市場関係筋の在庫は日毎に増加し、受け皿探しに苦労した。ホクレンの希望価格が値下がりしたものの、何処も満杯状態で売り込み叶わず、在庫を眺めて思案に暮れた。主要野菜は11月も高値が続き、ハクサイ、キャベツ、レタス、ダイコン、トマト等の小売り値は平年の、2.5倍から8割高と報道されたが、タマネギの市場価格は安値だった前年並みの水準で低迷している。現在も販売環境は厳しく、大口の需要家には北海物20kg ¥1,000で見切り売りが出ている状態である。産地で倉入れが終了して、入荷が減少し需給が改善することを願っている。上旬の販売量は3,772トン前年比118%、平均単価はkg ¥75前年比101%。中旬は3,460トン前年比109%、平均単価はkg ¥73前年比101%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の10月の玉葱の入荷量は、6,440トン前年比99%（前月比109%）で順調であった。前月同様北海物オンリーの販売で入荷は6,417トン前年比100%、占有率は100%弱で前年比1ポイントアップ。中

国物の入荷は21トン前年比35%。平均単価はkg¥75前年比103%(前月比67%)弱保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥75前年比104%。中国物はkg¥89前年比141%となっている。

11月に入り、ホクレンの希望価格が値下がりしたことで、価格維持の販売となったが、在庫整理は進まず、赤字販売も出来ず、販売環境の厳しさは解消されなかった。その後も北海物のお荷は潤沢で、荷凭れ傾向が続いていたが、今週当りから入荷は安定化し、荷凭れは解消されつつある。前捌きは良いとは言えないまでも、需給は均衡状態に向かい、在庫は減少し採算割れの販売は減少している。此の先、産地での倉入れが終了し、定時適量のお荷が続けば、相場は底値固めに入ると見ている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の10月の玉葱の販売量は、4,603トン前年比129%(前月比134%)で潤沢であった。北海物のお荷が急増し、北海物主力の販売となった。北海物のお荷は、4,603トン前年比140%、占有率は93%で前年比7ポイントアップ。兵庫物のお荷は294トン前年比60%、占有率は6%で前年比8ポイントダウン。中国物は14トンのお荷で前年比10倍。平均単価はkg¥86前年比99%(前月比65%)で前月と同様の35%安となった。産地別では、北海物はkg¥73で前年比104%、兵庫物はkg¥271で前年比141%、中国物はkg¥60で前年比53%で落込みが大きかった。

11月に入ってから、兵庫の冷蔵物のお荷は減少傾向で、引き合い強く強含み、北海物は増加傾向で弱保合が続いた。特に北見物のお荷が急増した。月半ばには直送物に加えて転送物のお荷も増加、市場関係筋では在庫が増加し、市場の荷置き場が北海玉葱で溢れかえる状態となった。堪りかねた仲卸筋ではL大、Lを¥1,100で売り逃げ販売が始まり、弱気ムードが広がり販売環境は厳しさを増した。現在も入荷は潤沢で在庫は減りそうにない。淡路物も品質格差が広がり、高値は一部で仲値、安値が増えている。11月の20日まで

の販売量は2,698トン前年比109%、平均単価はkg ¥81で前年と同じ水準にある。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の10月の玉葱の販売量は、4,147トン前年比137%(前月比96%)で潤沢であった。他地区の中央市場に比べ割高だったことが入荷の追い風となった。新顔の富山物の入荷増も影響した。北海物主力の販売で、北海物の入荷は3,379トン前年比133%、占有率は81%で前年比3ポイントダウン。富山物は378トンの入荷で前年は入荷なし。占有率は9%。中国物は228トンの入荷で前年比204%、占有率は5%で1ポイントアップ。平均単価はkg ¥112前年比119%(前月比82%)で、他の中央市場に比べ値下がり幅は小さかった。産地別では、北海物はkg ¥101で前年比116%、富山物はkg ¥200で前年比較は出来ず、中国物はkg ¥69で前年比69%となっている。

11月に入って、ホクレンの希望価格は値下がりしたが、入荷は順調で拡販に努めるも、荷動き鈍く捌き切れず在庫整理は出来なかった。管内市場では、販売量を調整しながら、価格維持の販売をしている市場もあるが、それでは在庫が増えて動きが取れなくなる。愛媛物は、週間2回の少量入荷で、関西市場同様の高値販売となっている。此処に来て、愛媛・香川の冷蔵物は高値疲れで、引き合いが弱く、荷凭れ傾向となっている。北海物は、値頃感が出て需給は均衡し、在庫は減少している。現在、北見物主力の入荷だが、大粒で2L、L大の比率が高くLが少なく拡販が出来ない。大口の注文はLが主力で、対応に苦慮している。20日までの玉葱の販売量は3,727トン前年比266%、平均単価はkg ¥108前年比135%となっている。

11月25日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷 107トン、 弱い

北海道 20kgDB2L¥1,200～950、 L大 ¥1,500～1,000、 L ¥1,300～1,150、
M¥1,000～

北海道 20kgNT2L¥1,000～850、 L大 ¥1,000～900、 L ¥1,100～1,050、
M¥900 ～

【太田市場】 入荷267トン、 弱保合

北海道 20kgDB2L¥1,200～1,000、 L大 ¥1,200～1,000、 L ¥1,200～1,100、
M¥1,200～1,100。

【名古屋北部】 入荷48トン、 保合

北海道 20kgDB2L¥1,300～1,200、 L大 ¥1,300～1,250、 L ¥1,300～1,250、
M¥1,300～1,200。

【大阪本場】 入荷139トン、 気配 弱い

北海道 20kgDB2L¥1,200～1,100、 L大 ¥1,300～1,100、 L ¥1,300～1,200、
M¥1,300～1,200。

兵 庫 10kgDB2L¥2,700～2,200、 L ¥3,000～2,200、 M ¥2,600～2,000、
S¥1,900 ～1,800。

【福岡市場】 入荷111トン、 保合

北海道 20kgDB2L¥1,300～1,000、 L大 ¥1,300～1,100、 L ¥1,500～1,300、
M¥1,500～1,300。

愛 媛 10kgDB2L¥3,000～2,800、 L ¥3,000～2,800、 M ¥2,800～2,600。

香 川 10kgDB2L¥3,000～2,800、 L ¥3,000～2,800、 M ¥2,800～2,600。

供給(産地)の動き

11月にはいつてからも、野菜は10月の低温、日照不足で出回り量が少なく、市況は高値が続いている。野菜需給協議会の見通しでは、秋冬野菜の主要6

品目で、タマネギ、レタスを除くキャベツ、ハクサイ、ダイコン、ニンジンの4品目は、入荷減から年内一杯高値が続くと見ている。

玉葱は、主産地の北海道産の作柄が予想以上に好転し、最終的には北見地区が昨年を上回る豊作となったことで、全道的には前年並みの出荷量が予想されている。出荷は前年に比べ後ズレ傾向にあり、現在の産地の在庫量は前年を上回る状態にある。

府県産地の冷蔵物は主力産地の淡路のほか香川、愛媛に在庫はあるが、いずれも数量的には前年の80%前後で限定的な販売に終始している。通常、年明けが重点出荷となる香川物も、既に九州市場へのお荷が始まっているが、高値のため引き合いは鈍い。長崎、佐賀のサラダ用の冬採り(セット栽培)玉葱も収穫・出荷が始まっているが、天候不順で球伸びが悪く、作柄は平年作を下回っている。数量的には少量でこだわり筋への限定販売となっている。

増加傾向となっていた輸入は、主力の中国物が値上がりしたことや、為替が急速な円安になっていることで、此の先、前年並みか下回るとみている。

北海道産地

北海道産地では、8月の台風に見舞われ、十勝、道東地方で玉葱圃場の流失・廃耕があったものの、北見管内の作柄が予想以上に好転したことで、現在の産地在庫は前年を上回っていると見られている。前年は、台湾・韓国向けの輸出により、春の暴落は免れたが、現在はアメリカ、中国とも前年に比べ大幅な価格安となっているため、輸出をするにしても前年価格をかなり下回ることになる。ロシア向けにサンプル出荷をした北見産の玉葱は、現地で好評を得ており、官民挙げてロシア極東向け農産物の輸出に取り組んでいると聞かすが、施設や輸送などに改善すべき課題があり、今シーズンのまとまった輸出は困難と思われる。今年、北海道では積雪が早く、早期の倉入れとなったが、秋の天候不順で、品質的には前年に比べ見劣りがする。市場では、倉入れ終了とともに出荷調整で、需給バランスの改善を期待する向きも多いが、出荷の後ズレは後顧に

憂いを残すことになる。秋冬野菜の高値で多少の代替需要は期待出来ると思われるが、市況の回復には時間が掛かりそうだ。

府県産地

府県産地では、既に次年度産玉葱の定植の最盛期を迎えている。極早産地の長崎では、10月からの天候不順で定植が遅れ、生育が懸念されている。続く大産地の佐賀では、前年はベト病の大被害で近年にない不作となり、生産者の栽培意欲が減退傾向となり、府県産地一番の維持が危ぶまれたことを受けて、県を始め関係筋が一丸となって、生産者の支援に取り組んでいる。が、現在定植期を迎えているものの、天候不順で苗立ち不良に加え、圃場が乾燥せず作業が大幅に遅れ、早生マルチの作付け減を余儀なくされている。

佐賀に次ぐ主力産地の淡路島でも、育苗は順調で前年並みの作付けが予定されているが、定植作業は後ずれしている。早生は手植えでの定植はほぼ終了したが、機械植えは後ズレしている。乾燥不良の圃場で定植をしている生産者も見受けるが、生育が懸念される。

外国産地

10月の輸入は、速報値で、22,914トン前年比98%と報告されている。国別の輸入量では、中国が21,142トン前年比93%。アメリカが1,728トン前年比271%、インド29トン、韓国が15トンとなっている。

中国、主力の甘粛省では、冬期を迎え低温に耐える貯蔵施設が少なく、産地在庫は減少している。更に冬季は輸送がコスト高になることで、現地価格はkg当たり2元程度値上がりしている。為替が円安になっていることもあり、現在の日本向け価格は、20kg・C&F・\$ 10.40～10.60に値上がりしている。

アメリカ、通常、日本向け出荷の最盛期だが、まとまった成約はなく少量の輸入にとどまっている。現在の日本向け価格は50㉿・Jサイズ・C&F・\$ 8.40～8.60の水準である。

輸入は、7月から増加に転じていたが、北海道産の豊作で10月は前年比減

になっている。中国の現地価格が値上りしたことや、為替が円安になったことで、今後の輸入は、前年並みか下回ると予想される。

12月の市況見通し

北海道産地では、倉入れが完了し出荷調整が可能な時期に入り、市況眺めの出荷になると思われるが、年内出荷の進捗率が65%を下回ると年明けの販売は厳しくなる。北見管内は積極的な出荷が続いているが、北見以外の地域では、市況回復の期待感が強く、出荷は後ズレ傾向にある。いずれにしても、12月市況は底値固めになるも、上昇は期待薄でL大¥1,300~1,100の予想。(了)